利賀っ子だより

R5．3．20

○　今度は　ぼくたちが

17日に、４人の６年生が笑顔で利賀小学校を巣立って行きました。

今日からは、５年生が利賀小学校のリーダーとなります。卒業おめでとう集会の計画や準備、卒業式の準備や片付けと５年生の活躍ぶりは目覚ましいものがありました。

ところが、５年生は、「ぼくたちが」と言う思いと「卒業式の準備等は、『ぼくたちが』と思って活動していたけれど、６年生が校舎内にいると思うのと、もう頼ることができない、学校にはいないと思うのとでは、気持ちの面で大きな違いがある」と複雑な胸の内を話していました。

【卒業式後　全校で】

ある日を境に突然リーダーになるのではなく、こんな経験を重ねながら、少しずつ心も行動もリーダーとして成長していくことを感じました。

○　互いに思いやる

【リハーサルで動きを確認する子供たち】

３月で地元の学校に戻る留学生とのお別れ会の準備をしています。南砺利賀みらい留学制度が始まって２年目となり、子供たちは、留学生を受け入れるということは、出会いと別れが毎年あることの理解をしてはいます。しかしながら、２年間あるいは１年間一緒に過ごした仲間と別れるのは寂しいことには変わりありません。

一緒に過ごす最終日になる２４日の集会には、どんなことをしたら互いに心に残る日になるのかを考えながらそれぞれが準備や練習をしているようです。

子供たちにとって、この留学制度は仲間が増え、活動が充実するということだけでなく、心を豊かにするという面からもとても意義ある制度であると思います。相手を思い、行動に表す子供たち、見ているだけで気持ちが温かくなります。

【送り出される子供たちも集まって相談】

（高田　公美）